

8. 放射線被ばくの影響とその防護 ～何ミリシーベルトなら安全か～

概要	放射線は太古の昔から自然界にあります。人類がその存在を認識したのは120年ほど前のことです。その短い間に放射線の利用は急速に拡がり、医療などで不可欠なツールになりました。一方、身体に過剰な放射線を浴びると健康に障害が出るのが分かってきました。本公開講座では、放射線による被ばくが人体に及ぼす変化やその長期的な健康への影響、そして放射線を安全に利用するために設けられた防護基準などについて解説します。	
会場	広島市南区民文化センター・スタジオ（広島市）	
時間	18:00～19:30	
定員／対象	120名／どなたでも	
受講料	無料	
7/11 (木)	1回	<p>放射線を浴びたら身体で何が起ころ？</p> <p>原爆放射線医科学研究所 教授 田代 聡</p> <p>1895年にレントゲン博士が放射線（エックス線）を発見してから、放射線による健康障害を伴う多くの事故を経て、放射線の生物学的影響についての多くの知見が集積してきました。本講義では、そうした放射線の生物影響に関する最新の科学的知見と、その影響の発現を利用した生物学的線量評価の方法について紹介します。</p>
	2回	<p>放射線を浴びたらすぐ病気になる？</p> <p>原爆放射線医科学研究所 教授 吉永 信治</p> <p>放射線を浴びても直ちに健康に障害が出るわけではありません。特に被ばくした放射線の量（線量）が少なければ、何十年も後にその影響が現れる場合があります。本講義では、そうした長い潜伏期間を経て現れる放射線発がんなどの健康影響について、最新の疫学調査研究で得られた知見を交えながら概説します。</p>
	3回	<p>放射線の影響から身を守るには？</p> <p>原爆放射線医科学研究所 教授 保田 浩志</p> <p>放射線は現代社会において不可欠なツールですが、過剰な被ばくによって健康を害する潜在的な危険性を有します。放射線を利用するにあたっては、その利便性を保ちつつ被ばくをできるだけ低く抑える姿勢が求められます。本講義では、そうした放射線防護の基本的な考え方や法令などで設定されている防護基準の意味などについて概説します。</p>
講座内容に関する問合せ	霞地区運営支援部 総務グループ	電話：082-257-5802 メール：kasumi-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp